

# 麦の生育と管理

令和5年3月号  
大分県北部振興局集落営農・水田畑地化第一班

## 適期穂肥で収量確保！

10aあたり穂肥の施肥量（例）

穂肥には無効分げつを減らし、子実重やタンパク質含有量を増やす効果があります。  
収量確保のため、**茎立期（7葉期頃）**を迎えたら**穂肥**を施用しましょう。

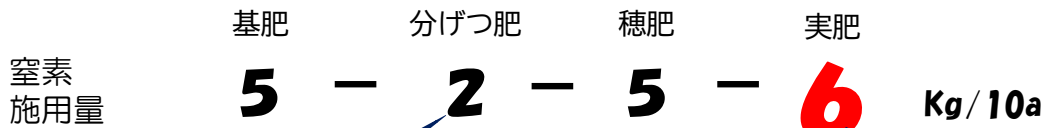
麦の種類	窒素量	化成肥料	施用
		16-0-16	時期
大麦、裸麦、小麦（チクゴイズミ）	3kg/10a	15kg/10a	茎立期（幼穂長20mm頃） 2月下旬～
小麦【パン用】（はるみずき）	5kg/10a	30kg/10a	

パン用小麦 「はるみずき」はタンパク含有量を上げるために必ず実肥を施肥しましょう

パン用小麦 タンパク質含量基準値：**11.5%～14.0%（目標13～14%）**

※実需者ニーズに加え、交付金単価を決めるランク区分でも重要な項目です。

「はるみずき」はタンパク含有量を上げる施肥管理を行います！



4～5葉期  
1月上中旬頃

茎立期  
2月下旬～3月上旬頃

穂揃期～開花期  
4月上中旬頃

- 【実肥の散布方法 例】①防除と同時に尿素6%溶液を2回散布  
②硫安30kg散布（背負散布機、ドローン等）  
※①か②の散布しやすい方法を選択

## 排水対策はしっかりと！

3月は麦の幼穂形成期です。

幼穂形成期以降に湿害にあうと大幅な減収につながります。雨が降った後は圃場の滞水状況を確認し、落水口へと水が落ちるよう排水溝や排水口の手直しをしましょう。

滞水期間	3日		3～7日		7～15日		15日以上	
	損傷状況	被害歩合	損害状況	被害歩合	損害状況	被害歩合	損害状況	被害歩合
幼穂形成期	-	10%	下葉の黄変 分げつの減少	30%	下葉の黄変 根腐れ 穂の発育が遅れ穂数が減る	40%	葉の黄変 根腐れ 出穂遅れ 穂数半減 草丈、穂長が短くなる	50%

## 雑草対策 生育期の除草適期について

- ・生育期除草剤は、雑草が大きくなる前にタイミングを逃さず生育期除草剤を散布しましょう。
- ・雑草が繁茂すると収量や品種の低下を招きます。
- ・特に、カラスノエンドウの種子は選別機で取り除くことが難しいので除草を徹底しましょう。



スズメノテッポウ  
(5葉期頃)



ヤエムグラ  
(4節期頃)

## 除草剤の使用ポイント

- ・毎年同じ薬剤を連続して使用しない！
- ・散布直後の雨に注意！  
雨が降ると除草剤が効きにくくなります。
- ・気温が上昇する(気温20℃以上)と、薬害のリスクが高まります。
- ・天気予報や土壤水分を確認して散布しましょう。

## 生育期除草剤

薬剤ごとに使用時期、使用回数が異なります。

ラベル等をよく読み使用しましょう。いずれの雑草も発生初期に防除しましょう。

薬剤名	ハーモニー75DF水和剤	バサグラン液剤	MCPソーダ塩
適用雑草・ 散布適期	一年生広葉雑草 スズメノテッポウ5葉期まで カズノコグサ1~3葉期	畑地一年生雑草 (イネ科を除く) 雑草の3~6葉期	一年生及び 多年生広葉雑草
	※注1) ハーモニー抵抗性スズメノテッポウには効果なし。		
使用時期	小麦 は種後~穂ばらみ期 (但し収穫45日前まで) 大麦 は種後~節間伸長前	小麦 収穫45日前まで 大麦・裸麦 収穫90日前まで	幼穂形成期 但し収穫45日前まで
使用量	5~10g/10a	100~200ml/10a	200~300g/10a
希釈水量	50~100ℓ/10a	70~100ℓ/10a	70~100ℓ/10a
使用回数	1回	1回	1回

**注意!!** 表に記載されている使用時期の葉齢は最大葉齢です。  
雑草が上の画像まで生育してしまう前に除草剤を散布しましょう。

## はだか麦 新品種「ハルアカネ」への全面転換について

- ・宇佐市の品種転換はR6年産(R5年播種)で全面転換となります。
- ・現在栽培中(R5年産)の「トヨノカゼ」は自家採種をしないよう全量出荷をお願いします。

### 産地交付金について

- ・R6年産のみ【予定】 3,000円/10a (上限3,600円/10a) が交付されます。全面転換時は種子更新費用もかかるため、申請漏れがないようお願いします。